

発言者	内容	備考
遠藤教育長	<p>それでは、これより平成 30 年第 5 回臨時教育委員会会議を開会する。本日は、私の他 5 人の委員が出席しているので、この会議は成立する。</p> <p>会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員は、会議規則第 14 条第 2 項の規定により、泉委員と出川委員とする。</p> <p>それでは、本日の会議の内容につきましては、配付している会議日程のとおりである。何か、ご意見はないか。</p> <p>ご意見がないので「日程第 1 議第 57 号 ①平成 31 年度使用中学校教科用図書 特別の教科 道徳 の採択について」に入る。</p> <p>本日の教科書採択の方法について、決定する。採択の方法については、「話し合いによる方法」「挙手による方法」「無記名での投票による方法」などが考えられるが、採択方法について意見はないか。</p>	13:00
森委員	<p>昨年の小学校道徳の採択においても、無記名による投票の方法を採用した。本年度、変えるのもどうかと思う。無記名による投票ではどうか。</p>	
西山委員	<p>賛成である。</p>	
遠藤教育長	<p>森委員から無記名での投票による方法の意見があったが、異議はないか。</p>	
各委員	<p>(異議なしの声)</p>	
遠藤教育長	<p>異議なしと認める。教科書採択の方法については、無記名による投票とする。</p> <p>それでは、事務局より説明をお願いする。</p>	
松島課長	<p>議第 57 号 ①「平成 31 年度使用中学校教科用図書 特別の教科 道徳 の採択について」熊本市教科用図書選定委員長から報告させていただく。</p>	
吉井選定委員長	<p>前回の臨時教育委員会会議で出た質問について積み残していた回答を研究員代表から説明する。</p>	

山川研究員代表

先日の臨時教育委員会会議でお尋ねがあったが十分に説明できなかった3点について、説明する。

まず、「いじめ問題」についての教材の内容や配列等の工夫について、県の選定資料 18, 19 頁をご覧ください。3社の特徴をこのような表にまとめた。県の選定資料によると、「いじめ問題」への対応のために設定された教材及び該当頁は、全学年で東京書籍（以下東書）16、学校図書（以下学図）11、日本文教出版（以下日文）26である。

共通に取り上げられている内容としては、いじめを構造的に捉えた傍観者や観衆の視点から考えるもの、いじめはいじめる側にとっても生涯深く後悔を生む行為であること、SNSに投稿する行為がいじめにつながっていくことなどがある。

各社を見ていくと、東書の特徴としては、1年34頁をご覧ください。先ほど述べた構造的な視点に立って、傍観者や観衆等のそれぞれの立場を考える内容となっている。これは、1・2年生のいじめ防止の学習の中心となっている。また、2年30頁、3年27頁をご覧ください。2年生では「相談し合える仲間づくり」の大切さ、3年生では「人を追い込む心、支える心」から友達としての在り方を考え、いじめ問題に向き合う内容も取り上げられている。

学図は、1年218頁、2年172頁をご覧ください。偏見や先入観、それに同調する人の存在を認識することを通して、多様性を認め共に生きることの大切さを考える内容を取り上げている。また、3年150頁をご覧ください。生々しいいじめの実態を扱った教材もある。

日文は、1年160頁、3年50頁をご覧ください。1年生では、「グループ作りで自分だけ余りになってしまう」こと、3年生では、「ぼかし言葉」を取り上げ自分の考えを通す難しさについて考えるといった身近な出来事をもとに、相互理解や寛容の視点からいじめに向き合う内容が取り上げられている。また、2年121頁をご覧ください。コラム「プラットホーム」では、いじめをなくすための取組、他のコラムでは、アンガーマネジメントやアサーション等のスキル、様々な人権課題についても扱われている。

次は、二つ目の道徳的实践まで視野に入れた工夫についてである。実践できることはとても大切なことである。しかし、道徳的实践は、道徳科の目標としては直接求められてはいない。道徳科の役割は、道徳的实践につながるように「心を耕す」こと、「内面的資質」、すなわち学習指導要領の目標で示すところの「道徳性」を育てることである。価値の大切さを感じ取ったり、善悪を判断したり、意欲や態度といっ

た道徳的行為へつながる身構えを授業で育てることである。そうすることで、生徒は、日常生活で出会うであろう様々な場面において、適切な行為を主体的に選択し、実践することができるようになるのである。道徳科のそのような特質を踏まえ、各社、「生徒が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める」ための工夫がされている。

そこで、3社の特徴的な部分を説明する。教材は、前回話題に上がった「ごみ問題」を扱った教材で確認する。これは内容項目「社会参画、公共の精神」にあたるので、学図でもその内容項目にあたる教材を選んだ。東書1年83頁、学図1年178頁、日文1年58頁をご覧ください。

東書では、このように幾つかの考えを示した教材を選定している。そうすることで、生徒は教材で示された考えをよりどころとし、自分の考え方を明確にしたり話し合ったりすることができる。その他、発問で、物事を様々な人の立場から捉え、考えるよう、促すものがある。「見方・考え方を広げるための教材や発問の工夫」が東書の特徴といえる。

学図では、教材末183頁に「コラム 心の扉」がある。「コラム」に書かれている内容と発問は、教材で学んだ価値に照らして自分を見つめ直すものである。このことにより、生徒は自分のよさに気付いたり、課題や目標を見出したりすることができる。「自己を見つめ生き方につなぐための『コラム』の充実」が学図の特徴といえる。

日文では、60頁に「学習の進め方」があり、学習過程が明確である。話合いの例や発問で「考え方」「理由」を大事にしていることは、見方・考え方を広げることになる。「問題意識を持ち価値を追及していく学習過程の工夫」が日文の特徴といえる。

最後に、「考え、議論する道徳」の対応についてである。授業で、考え、議論する時間を十分にとるためには、教材文が長いのではないかというお尋ねがあった。県の選定資料16頁をご覧ください。頁総数は、東書559頁、学図676頁、日文573頁となっている。ここでは、特に、前回話題となっていた多様な考えを引き出す工夫について、共通教材を取り上げ、授業において重要である「発問と挿絵」で、もう一度比較する。教師による発問は、生徒の思考や話合いを深める鍵となり、挿絵は内容理解を助けたり、黒板に貼ることで生徒一人一人の思考を広げ深めたりするための一助となりうる重要なものである。

では、2・3年生で取り上げられている「足袋の季節」を例に比較する。内容項目は「よりよく生きる喜び」である。

東書3年110頁，学図3年168頁，日文2年168頁をご覧ください。
たい。

東書では，教材の初めに内容項目「よりよく生きる喜び」について考えるようなテーマ「弱さと向き合って，変わらないことはあるかな」が示されている。挿絵は版面調で趣があり，昔を思い出す主人公を想像できる。中でも，一つ目は，主人公がおばあさんと向き合うような形で描かれており，自我関与をさせやすく生徒の多様な考えが引き出せると考えられる。112頁の発問をご覧ください。2つ目の発問「過ちや失敗にきづいたとき，人間としてどう行動することが必要だろうか」は，始めの問い「弱さと向き合って，変わらないことはあるかな」と関連付けて考えることができれば，多様な感じ方や考え方を出し合いながら価値に迫ることができる。

学図である。「つり銭の受け渡し」と「果物かごを見送る」場面が挿絵となっており，教材の中心を捉え，昔が今につながっている状況も分かりやすくなっている。170頁の発問をご覧ください。このように，挿絵と関連付けられており，板書に活用できる。1つ目の発問は，「自責の念」と「甘い考え」という心の葛藤を役割演技という方法で実感的に理解できるようにしてある。そして，体験で終わらず，「意見交換」につなぎ，体験的行為を通しての気づきを出し合うようになっており，多様な考え方を引き出すことが期待できる。

日文である。「小樽郵便局」の写真と「足袋」「つり銭の受け渡し」「果物かごを見送る」場面が挿絵となっている。足袋そのものを知らない生徒にも理解させた上で話に入ることができ，昔はセピア色，今はカラーと描き分けてあることで，時間の推移を感じ，話の流れがつかみやすいと考える。172頁の「学習の進め方」をご覧ください。中心場面の挿絵があり，発問と関連付けられている。それをもとに，問題意識を持ち，書く活動を経て，他者との議論の中で多様な考えを引き出すような発問となっている。

以上で，お尋ねがあったことへの説明を終わる。

西山委員

選定委員会から，3つの教科書の中では，目次と導入部の丁寧さの点で，東書と日文が優れていると報告されたが，確かにそう思う。考え，議論する道徳の観点から見た場合，日文はノートがあり非常に使いやすいという評価であるが，教科書展示会における学校からの感想では，かなりの人がノートは使いやすいと評価している。一方で，画一的で使いにくいという意見も少なからず見られる。ノートを拝見していて，マンネリを感じるつくりになっている気がする。東書は，最初の方で，例えば，1年生26頁などでは，いくつかの問いかけが

	<p>あるが、後のほうになると、58 頁では別の問いかけの形になり、かなり工夫されている。また、各教材の最後の「考えてみよう」では、議論を促す工夫がある。前日も話したが、議論の仕方が 102 頁に示してあるが、これは教師にとっては、議論を促す参考になると思う。そういう観点では、東書の方が考え、議論する道徳という意味で優れていると判断する。また、小学校では日文を採択している。中学校でも同じ会社を採択することに、若干、抵抗がある。道徳については、1社に絞るよりは、複数社から採択するほうが望ましいという気持ちもある。</p>	
遠藤教育長	<p>東書に関して、1つの特徴になっている「心情円」について、どのように評価しているか。</p>	
山川研究員代表	<p>良い教具であると評価している。研究員の話にも上がった。ノートについても検討を行った。小学校で採択している教科書と同じ会社となることについても話題になった。しかし、研究する中で、教師にとっては使いやすく生徒にとっては学びやすい教科書は、日文であるという結論になった。</p> <p>ノートについては、それがベースとなり、オリジナルなワークシートを作成するなど展開が工夫できる。学びをストックするという意味でも、1冊にまとまっていることに意味がある。</p>	
遠藤教育長	<p>日文のノートについては、全部やっていくとなると書く時間がかかるので、読んで書くだけで終わる可能性がある。話し合うことを重視すると、ノートは使わないで授業を進めることもありうるのではないか。</p>	
山川研究員代表	<p>ノートをベースに記録をしていくことになるが、授業によっては、生徒たちの議論を中心とし、ノートの最後に感想やまとめなど授業の学びを書くにとどめる場合もある。教科書主体の授業であるため、使い分けをすることになるが、最低でも、授業の終わりに記入するととらえている。</p>	
森委員	<p>研究発表会で授業を参観すると、ノートやワークシートに自分の考えや問いに対する答えを書く場面があるが、書けていない子どもが少なからずいる。何も書けていない子どもへは、どのように対応するのか。</p>	

山川研究員代表	<p>机間指導による適切な助言や班学習による子ども同士の教え合いなどによって補う。</p>
安井指導主事	<p>補足する。今回の教科書で、3社とも記述欄が設定されている。書くということは、考え、議論するうえで大切である。書けない子どもにとって、教師の発問の後にそのまま議論に進んでしまうならば、一人一人が自分の考えを持っての話し合いは成立しないと考えられる。中学校では、中心的な発問と今日の学びに照らして、自分の生き方や自分のこれまでとを考える場の2つに重きをおいて書く活動を設けている。書くことで一旦、静かな状態になって子どもたちが自分の中で考えを整理することができ、そこで考えを持つことができた子どもは、伝えたいと思うようになる。書けていない子どもは、そこで教師が支援することで考えを持つことができる。書くことは、今、授業で向き合っている問題を、真摯に自分に向けて考える活動であるにとらえているため、各社は記述欄を設けている。その点が重要になってくると思う。</p>
遠藤教育長	<p>日文のノートには、書くところがたくさんあり、書くことが中心になるのではないか。</p>
安井指導主事	<p>日文のノートは、確かに書くところがたくさんある。日文のノートに示してある発問も他社の教科書に示してある発問も一般的な発問であるので、教師が教材を見たときに、学習指導要領をしっかりと読み込んで、ねらいと照らし合わせ、子どもの実態と向き合ったとき、どの発問でいこうかなというところをもう1回吟味することは、どの時間でも大事になってくると思う。そのため、発問やどこに重きをおいて書かせるのかなど、授業づくりについては、本市の研修の中でも力を入れて取り組んでいるところである。</p>
遠藤教育長	<p>西山委員に質問。東書の表紙の絵について、地震をフラッシュバックさせるという意見があるが。</p>
西山委員	<p>もし、そういう考えがあるのであれば、避けたほうが良いかもしれない。東書と日文がさほど差があるとは思っていない。内容的には東書が良いと思っているだけである。</p>
森委員	<p>時間の関係もあって、観点が絞り込んであるが、10観点の中の観点6に勤労観や職業観を育むための工夫が示してある。県の資料では</p>

<p>山川研究員代表</p>	<p>観点6には、先人の伝記やスポーツを題材とした教材がまとめてある。道徳を通じて健全な勤労観を育む教材があれば教えてほしい。</p> <p>東書では、1年生の48頁に、「新しいプライド」という教材がある。新幹線の清掃活動をする女性の姿をとおして、働くうえでの生きがいなどの勤労観を扱ったものである。</p> <p>学図では、3年生の48頁に、「桑の都」がある。職場体験をとおして学んだ多摩織りのことについて、伝統の大切さも含めて示してある。</p> <p>日文では、3年生の62頁に、「命のトランジットビザ」があり、生きがいや仕事のやりがいについて示してある。</p>	
<p>安井指導主事</p>	<p>補足する。東書の「新しいプライド」について、勤労観を養う教材になっている。最初は車両の清掃で、人には言えない職業だと本人がとらえていたが、その仕事のやりがいや客に認められた喜びを感じて仕事へ生きがいを高めていく教材になっている。</p> <p>学図と日文は、職場体験に関する内容である。学図の「桑の都」では、地域の伝統工芸を体験することで、伝統工芸を受け継ごうと頑張ってきた方の生き様を知り、どう関わっていったらいいかにつながるような展開になっている。熊本市教育振興基本計画にも、体験を通して道徳教育をどう育んでいくかが示されている。職場体験などを通して、教科書の教材とつなげ、心を育てていく教科書となっている。また、日文では2年生84頁の「小さな工場の大きな仕事」には、学図でも取り上げられた職場体験とのつながりになっており、父の仕事に誇りを感じるようになっていく教材である。未来を生きる子どもたちへ、仕事のつらさもありつつ、その上で、よりよく生きてもらうためにも、仕事の誇り、生きがい、喜びといったところをテーマにした教材がたくさん取り上げられている。</p>	
<p>小屋松委員</p>	<p>道徳科は、考え、議論する道徳ということで、それを実現するために大事なことは、グループ討論を活発にしていくこと、議論をとおしての気付き、気付きを自分の考えとしてまとめていくことなどのプロセスがスムーズに流れていく、そういった教材の作り方が好ましいのではないかと思う。その観点からして、まず主発問がある、それを展開させるための問題提供、当事者の心情や立場や背景を通して気付いていく、そして最後は振り返り記述として残していく流れが充実している教科書、また、教師の立場に立ったときに授業が進めやすい観点から、ここにあげられた6つの視点が選ばれたものであると理解して</p>	

	<p>いる。特に、印象に残ったのは、日文の「プラットホーム」が充実していることである。「プラットホーム」は、いくつかあって、読んでいくと別の気付きがあり、そういう意味では印象に残っており、教科書としては充実している。ただ、懸念材料は、内容が充実しているために、1時間の授業の中でどれくらい深まりを持たせることができるのか、それぞれが気付きを持つことができるのかを懸念している。つまり、学習内容が多すぎないかということである。議論し、深い学びにつなげていくことは道徳には大事であるが、1つの題材を1時間の授業で展開していくには、無理があるのではないかと考える。教科書としては素晴らしいものであるが、学校現場で使用するときには、例えば、2時間のコマを使って1つの題材を展開していくことも、臨機応変にやれるのではないか。そのことによって、議論が苦手な子どもも時間をとってあげるならば話せるようになり、記述が苦手な子どもも書けるようになるのかもしれない。ゆとりを持たせるような時間を道徳では持ってもらいたい。</p>	
<p>泉委員</p>	<p>3社とも、話し合いに持っていくシステムや討論を引き出すような工夫などよくできており、特に、日文の教科書はよくできていると思う。道徳科は、教科書を教えるというよりも、教科書を使って、どう話し合いをする内容を自分の考えにもっていくかが大事であると思う。そういう観点で考えると、興味を持つ、心を揺さぶられる、子どもたちの心に訴えかけるものがなければならない。3つの教科書の題材を、そういう観点から見た場合、どのような違いがあるか。</p>	
<p>山川研究員代表</p>	<p>どの教科書も工夫がある。教科書にはそれぞれ良いところがある。例えば、1年生が最初に教科書を開いたときに、印象に残るのは、日文の「サッカーの漫画を描きたい」であると思う。</p>	
<p>西山委員</p>	<p>私が印象に残った教材は、杉原千畝である。東書では2年生94頁、日文では、3年生62頁から始まっている。この教材のつくりをみると、東書では101頁に、杉原千畝の「私のしたことは外交官としては間違っていたことだったかもしれない。しかし、私には、たよってきた何千人もの人を、見殺しにすることはできなかった。」という言葉が掲載されている。私はここがポイントだと思う。戦時中、同盟国を裏切る行為をし、帰国すれば罰せられることを、人道的観点からしたわけであることを、東書では、非常に明確に書かれている。日文では、その点あまり明確ではない。問いかけのほうも、東書では99頁に「考えてみよう！」ではっきりと具体的に示してある。日文では「考えて</p>	

	<p>みよう」では、少し抽象的である。問題の本質に迫るという点では、東書が優れているという印象を持った。ただし、その次の「エリカ」は、杉原千畝の教材のバックグラウンドとして、非常に優れていると思う。</p>	
<p>山川研究員代表</p>	<p>日文の3年生「エリカ」の教材で、例えば、70頁の挿絵1枚からでも多様な発問ができる。</p>	
<p>出川委員</p>	<p>道徳は、考え、議論することも大事であるが、まずは、気付くということが大事である。気付くことを大事に、教師が発問をしたり、子どもが今まで関心がなかったことや普通だと思っていたことが、実はそうではなかったことに気付かせたりするようところが大事である。</p> <p>ノートはよいと思う。この一冊に書いていき、後から見直すことにより、自分で振り返りができる。そこが、考えたことが根付いていくところではないかと思う。その時考えたことを残すことは大切であり、生徒にとって良いと思う。</p>	
<p>遠藤教育長</p>	<p>仮に専用のノートがなくても、授業では普通のノートを使うのか。</p>	
<p>山川研究員代表</p>	<p>ノートがない場合は、例えばワークシートを作成し、ファイリングすることが考えられる。</p>	
<p>遠藤教育長</p>	<p>それでは、いろいろな意見が出たが、採択する教科書の投票を行う。研究員代表は、調査研究のご報告をいただき感謝する。投票になるので、ここでご退席をお願いします。</p>	
<p>遠藤教育長</p>	<p>投票結果を報告する。</p> <p>日本文教出版4票。東京書籍2票</p> <p>この投票結果から、日本文教出版の教科書を採択することに決定する。</p> <p>議第57号 ①「平成31年度使用中学校教科用図書 特別の教科道徳の採択について」は、日本文教出版と決定する。</p> <p>続いて「日程第1 議第57号 ②平成31年度使用小学校 道徳以外の教科用図書 の採択について」に入る。</p> <p>本日の教科書採択の方法については、無記名での投票による方法もあるが、他に、話し合いによる方法、挙手による方法などが考えられる。意見はないか。</p>	

森委員	<p>道徳の教科以外の教科書の採択になると、教科数が多いこと、出版社も科目ごとばらばらであるので、教科毎に無記名投票で行うならば時間もかかるため、一括して挙手の方法がいいかと思う。</p>	
遠藤教育長	<p>森委員から挙手による方法の意見があったが、異議はないか。</p> <p>(異議なしの声)</p>	
遠藤教育長	<p>異議なしと認める。小学校 道徳以外の教科書採択の方法については、挙手による決定とする。</p> <p>それでは、事務局より説明をお願いします。</p>	
松島指導課長	<p>議第 57 号 ②「平成 31 年度使用小学校 道徳以外の教科用図書の採択について」の審議をお願いします。</p> <p>選定委員会から吉井選定委員長に報告をお願いします。</p>	
吉井選定委員長	<p>選定委員会では、今年度まで使用している平成 26 年度採択の教科書を平成 31 年度も継続して使用することを推薦する。</p> <p>推薦理由として、主なものを 3 点申し上げる。</p> <p>1 点目は、教科書展示会等において、小学校の先生方から出された意見では、「適した文字の大きさで使いやすい」「資料が豊富で充実している」「学習の手引き等が工夫されており、活用しやすい」等の肯定的な意見がほとんどであった、という点である。</p> <p>2 点目は、小学校校長先生からの意見において、「現在 4 年間使用している教科書において、不都合な点があるなどの声は聞かれておらず、特に問題はない」という意見である、という点である。</p> <p>3 点目は、来年度（平成 31 年度）には、新学習指導要領に基づいて改訂される新しい教科書の中から、改めて採択を行うことになる、という点である。</p> <p>以上のことから、現在使用している平成 26 年度採択の教科書を、平成 31 年度も継続して本市の児童が使用する教科書として、最適であると考え、推薦する。</p>	
遠藤教育長	<p>今、説明があったが、意見はないか。</p>	
遠藤教育長	<p>特に意見がないようなので、採決を行う。</p> <p>現在使用している小学校の教科書を継続して平成 31 年度も採択す</p>	

遠藤教育長	<p>る採択することに賛成の方は挙手をお願いします。</p> <p>【全員挙手】</p> <p>全員賛成ということで、この結果から、議第 57 号 ②「平成 31 年度使用小学校 道徳以外の教科書について」は、平成 26 年度採択し、現在使用している教科書を継続して採択することに決定する。</p> <p>以上で、平成 30 年第 5 回臨時教育委員会会議を閉会する。</p>	
-------	---	--